

勿凝学問 342

2010年、「混迷」の社会保障界
おもしろすぎる、『週刊社会保障』の編集室

2010年12月21日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

今年最後の『週刊社会保障』が届いた。一通り眺めて、編集後記が書いてある「デスクの目」をみて、失笑。

社会保障界1年の動きを、恒例の「本誌が選ぶ10大ニュース」として掲載しました。今年を振り返っていただければ、幸いです。

10大ニュースをまとめた弊誌スタッフに、社会保障界の1年を漢字で表してもらいました。各分野を統括する野原は「迷」、主に医療保険担当の豊島は「虚」、年金担当の釘島は「滞」、保健・福祉等担当の石田は「闇」、診療報酬等担当の高木は「綻」、国会担当の菅原は「空」(カラ)、そして今年4月入社した新人の清水は「混」をあげました。社会保障界に明るい漢字はなかったということです。ベテランの野原と新人の清水が上げた漢字を合わせると『混迷』となりました。

日本の社会保障、お前はすでに死んでいるっ、かな(笑)。

政権交代で破壊されたし——「[社会保障の政策転換からその破壊まで](#)」参照(北大シンポ)、少なくとも、社会保障論議は、政権交代で殺されたもんな——[さながら、社会保障政策論の暗黒時代ってところだな](#)

そう言えば先日、僕が依頼された仕事をいつものように断ると、「そんなに断ってばかりいると、世間から忘れられますよお」との弁。

さすがに、もう、みんな忘れてしまっているだろうし、君も忘れておくれ(笑)。明日も、できの悪い学生の卒論報告のためにやるゼミの補講で、学校。僕の暇を一番迷惑がっているのは、学生だろな。。

ちなみに、2年前、2008年の『週刊社会保障』が選ぶ10大ニュースの話がでる僕の文章は、次。

勿凝学問 211 [別にこだわりがあるわけではない高齢者医療制度改革案——高齢者医療制度に関する検討会への試算要求](#)

勿凝学問 218 [足りないのはアイデアではなく財源である](#)

勿凝学問 231 [国民の情報の質と量が変われば、民主主義は動く——キャリアブレインのインタビュー](#)

翌日

ウッ、ウケた。この文章に出てくる、『週刊社会保障』年末の「デスクの目」。2年前の2008年、年末締めくくりの「デスクの目」のタイトルは、なんと「**社会保障の出番**」——思いつき、前向きだねえ。

まさか、翌2009年の8月30日に政権交代が起こり、それから一年半後には「混迷の社会保障」になってしまうとは、想像しなかつたらうな（笑）。

ところで、僕が最後にインタビューに応えたのは、今から一年半前の2009年7月30日の『読売新聞』のもよう。昨日読み直してみたけど、あの、歴史的な？政権交代の前に、こんなことを言っていたのは僕だけだろうな。政権交代を直前に控えた総選挙前の盛り上がりの中、これを一面に載せた『読売新聞』はなかなかの根性もんだった（笑）。

- 「視点 09 衆院選 [社会保障の財源示せ](#)」『読売新聞』2009年7月30日朝刊

これなんかもどうか。『産経新聞』も、あの、政権交代大歓迎という一方的な流れの中で、よくがんばっているよ（笑）。そして、『読売新聞』や『産経新聞』が、当時、紙面に載せた通り、社会保障界の混迷が、目の前で展開されている。

- 「[社会保障の財源どうする？](#)」『産経新聞』2009年7月10日

ただ一言、「[この人民ありてこの政治あるなり](#)」ってことだな。